

銭から見える古代・中世の世界

日本人が「お金」を用い始めたのはいつからでしょうか。

「お金」の定義にもよりますが、現代のような「お金」を使い始めたのは飛鳥時代といえます。それは金属（主に銅）でつくられ、円形で中心に四角の孔が開く「銭」と呼ばれるものです。しかし、銭が全国津々浦々で商品の交換手段として用いられるようになるのは中世を待たねばならず、しかもその中心を担ったのは中国でつくられた銭でした。

今回の講座では、松山大学の井上正夫先生をお招きし、経済学・歴史学の双方の視点から、銭から見える古代・中世の日本についてお話しいたします。



講師 いのうえ まさお 井上 正夫先生

略歴

1964 年生まれ

1987 年 京都大学経済学部卒業

2001 年 京都大学大学院経済学研究科博士課程修了

現 在 松山大学経済学部教授 博士（経済学）

著 作 『東アジア国際通貨と中世日本-宋銭と為替からみた経済史-』（単著 2022 年 名古屋大学出版会）
『宋銭の世界』（共著 2001 年 勉誠出版）

他多数

日時 令和8年2月14日（土）

午前10時30分～11時30分

会場 香川県埋蔵文化財センター講習室
（坂出市府中町南谷 5001-4）

聴講料 無料

定員 40 名（申込先着順）

申込方法 電話・メール

メールの場合は氏名・連絡先を記入してください。

電話 0877-48-2191

（平日：9時00分～17時00分）

Email maibun@pref.kagawa.lg.jp

締切

2月9日（月）



県内で見つかった古代の銭



中世日本で流通した銭